

5

基準の解説

(1) まち並み景観形成基準について

ここでは、「表1 まち並み景観形成基準」について参考例などを紹介しながら解説します。

まち並み

【基準】

- 建築物の軒先や壁面の位置は、歴史的な建築物にできるだけそろえ、まち並みの連続性を大切にする。
- 建築物を道路から後退して建築する場合や、青空駐車場などの空地の場合は、道路沿いに門、塀、生垣などを設け、まち並みの連続性を損なわないように努める。

【解説】

個々の建築物のデザインがいくら素晴らしいものであっても、それぞれの建築物の配置や形、色彩などに統一感がないと、建築物の集合体である「まち並み」は美しいものになりません。また、空地が増えるとまち並みが分断されてしまいます。

ここでは、二川宿の歴史的なまち並みの特徴である「切妻平入りの家々が軒を連ねて建ち並ぶまち並み」を大切に、隣同士でつながりをもった美しいまち並みをつくるための配慮を示しています。

新築する建築物の軒先や壁面の位置は、歴史的な建築物にあわせましょう。

基準とする歴史的な建築物の例

「生垣」による連続性の配慮例



「板塀」による連続性の配慮例

「庇付きの門」による連続性の配慮例

建築物(高さ)

【基準】

- 道路沿いに建築する場合は、2階建てまでとする。
- 道路から後退して建築する場合は、3階建て程度を限度とし、まち並みから突出しないようにする。

【解説】

道幅約6mの旧街道沿いに建つ建築物は、大半が平屋か2階建てとなっており、街道の空間は、歩く人々にとって心地よいものとなっています。街道沿いに高い建築物が建つと、通りに圧迫感や日陰の問題が生じるだけでなく、まち並みの眺めを分断してしまいます。

ここでは、まち並みの連続性を大切にしながら、広がりのある空の眺めと、こちよい通りの空間を保つための配慮を示しています。

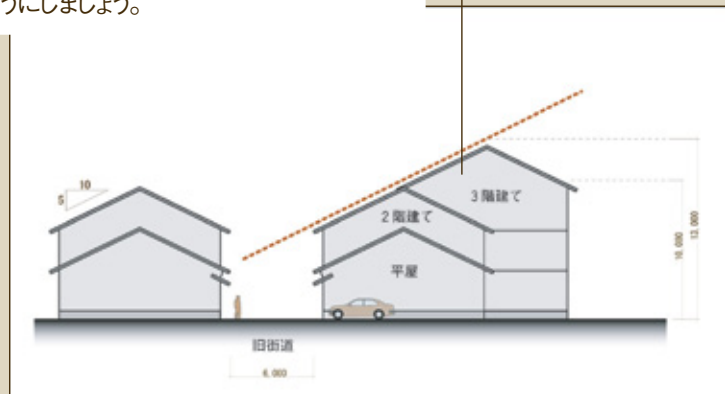
街道沿いに高い建物が建つと、まち並みの眺めが分断されてしまいます。



街道沿いの建物は2階建てまでとし、広がりある空の眺めを大切にしましょう。



街道から後退して建築する場合は、3階建て程度までとし、歴史的な建築物(2階建て)の屋根勾配の延長線を越えないようにしましょう。



建築物（屋根・庇）

【基準】

- 切妻屋根を基本とする。
- 旧東海道に面する屋根は道路に向けて傾斜させ、1階には軒の出のある庇を設ける。
- 勾配は歴史的な建築物と不調和にならない範囲とする。
- 素材は自由とするが、落ち着いた質感のものとする。
- 色彩は灰色とする。

【解説】

二川宿の歴史的なまち並みの特徴のうち、最も印象深いもののひとつは、屋根と庇です。地域の気候風土にあわせ、雨露や夏の強い日差しをしのぐために軒を深く出し、隣に雨が落ちないように街道へ向けて傾斜させています。深い軒の出は、趣のある陰影と雨宿りなどができるやすらぎの空間をつくりだしています。また、祭りの際には、街道に向けて傾斜する落ち着いた灰色の屋根が、山車の華やかな飾りつけを引き立てる背景となります。

ここでは、まち並みの連続性を大切にしながら、新しい素材にも対応した美しい屋根並みをつくるための配慮を示しています。

旧街道に面する屋根は、道路に向けてゆるやかに傾斜させましょう。

素材は、自由としますが、瓦屋根に調和する落ち着いた質感のものにしましょう。



1階には軒の出のある庇を設けましょう。深い軒の出は、趣ある陰影をつくります。

色彩は、瓦屋根に調和する灰色としましょう。

屋根の色彩の推奨色を、この章の後に示していますのでご活用ください。

建築物（壁面）

【基準】

- 壁や建具に格子のイメージをいれる。
- 建具の形は自由とする。
- 素材は自由とするが、落ち着いた質感のものとする。
- 壁の色彩は、濃い茶色や黒色を基調とし、全体が落ち着いて見えるものとする。
- 建具の色彩は、濃い茶色や黒色を基調とする。

【解説】

二川宿の風情あるまち並みの印象は、壁面の繊細な格子や落ち着いた色彩、自然木などのあたたかな素材感などにより醸し出されています。

ここでは、まち並みの連続性を大切にしながら、新しいデザインや素材にも対応した美しい壁面をつくるための配慮を示しています。

色彩は、濃い茶色や黒色を基調としましょう。白色などの明るい色を使う場合は、濃い茶色や黒色とセットで使い、建物全体が落ち着いて見えるようにしましょう。

素材は、自由としますが、木や漆喰などに調和する落ち着いた質感のものにしましょう。



壁や建具に格子のイメージを入れましょう。格子は、見る角度により建物の表情を変え、豊かな陰影をつくります。



パステルカラーや原色は、まち並みと不調和になるので避けましょう。

壁の色彩の推奨色を、この章の後に示していますのでご活用ください。

門・塀

【基準】

- 形、素材、色彩は、歴史的な建築物に調和する落ち着いたものとする。
- 旧東海道に沿った門には、できるだけ庇を設ける。

【解説】

二川宿のまち並みは、軒先や壁面が、隣同士僅かな違いはありながらも全体としては連続している姿が特徴です。

ここでは、駐車場などにより道路沿いが空地になる場合に、まち並みの連続性を保つために設置する門・塀への配慮を示しています。

旧東海道に沿った門には、できるだけ庇を設け、まち並みの連続性を保ちましょう。庇の高さや勾配などは、歴史的な建築物に調和したものとしましょう。

門に格子戸や側壁を設けたり、隣地境界へ塀や生垣を設けるなど、まち並みの分断をやわらげる工夫をしましょう。

塀を設ける場合は、歴史的な建築物の壁面に調和する位置とし、形や素材、色彩は落ち着いたものとしましょう。



門・塀の色彩の推奨色を、この章の後に示していますのでご活用ください。

設備

【基準】

- 玄関先に照明を設置する場合は、電球色の光とする。
- 空調室外機などは、道路から直接見えない位置に設置するよう努め、やむを得ない場合は、格子で覆うなど建築物に調和させる。

【解説】

建築物には暮らしに必要な様々な付属設備が設けられますが、無造作に設置されると景観を乱してしまう場合があります。逆に、ちょっとした心遣いでまち並みが活きます。

ここでは、夕暮れ時からの落ち着いた景観を演出する照明と、建築物に付属する設備への配慮を示しています。

玄関先に照明を設置する場合は、電球色の光とし、夕暮れ時からの落ち着いたまち並みを演出しましょう。



祭りの提灯のような温かな光で、夜の美しいまち並みをつくりましょう。

空調室外機などの設備は、格子で覆うなど建築物に調和させましょう。



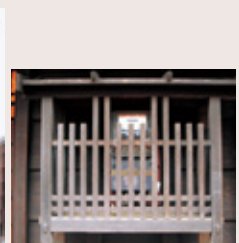
● 空調室外機の覆い



● 消火器箱



● ホース格納箱



● 電気メーター覆い

広告物

【基準】

- 自家用以外の広告物は設置しないよう努める。
- けげげばしい電飾広告や、誇大なものは、設置しないよう努める。
- 形、素材、色彩は、歴史的な建築物に調和する落ち着いたものとする。
- 高さは、建築物の2階(平屋の場合は1階)の軒高を超えないようにする。

【解説】

広告物は営業活動などに必要なものですが、景観への配慮が不足しているとまち並みの美しさを乱してしまいます。逆に、建築物にうまく調和させた広告物は、まち並みを引き立て、営業活動にも好印象を与えます。

ここでは、建築物に調和し、まち並みを引き立てる広告物への配慮を示しています。

デザインは建築物に調和させ、歴史と文化のイメージを伝えるものにしましょう。派手な広告物は、かえって店の印象を悪くすることがあります。



赤や黄色などの原色の使用は避け、木や布などの自然素材を活かした色彩としましょう。鮮やかな色を使う場合は、藍染や草木染めなどの日本の伝統的な色彩の範囲にとどめましょう。



【基準】

- 色彩は、茶色や灰色とし、照明や表示物は機能上必要最小限のものとする。
- 建築物の軒下に納まるように努め、複数設置する場合は、高さやデザインをそろえる。

【解説】

金属の箱でできた自動販売機は、歴史的なまち並みの調和を乱してしまう場合があります。

ここでは、まち並みに調和した自動販売機への配慮を示しています。

色彩は、歴史的なまち並みにとけ込む茶色や灰色を使用し、建築物に調和させましょう。また、広告シールの貼り付けはできるだけ避け、点滅照明が少ない機種を選びましょう。複数設置する場合は、デザインをそろえ、並べ方にも配慮しましょう。空き缶入れもセットで配慮するとより望ましいでしょう。



本体を建築物などに組み込むことで、まち並みにより調和させることができます。



【基準】

- 緑化や床面仕上げなどに配慮し、落ち着いた雰囲気の修景に努める。

【解説】

敷地の前面をちょっとした小物や草花などで彩ると、建築物が引き立つだけでなく、まち並みの魅力がいっそう向上します。

ここでは、まち並みの美しさを引き立てる建物の前面空間への配慮を示しています。

和風の植栽や景石などで小庭をつくるとまち並みに風格と潤いが生まれます。



床面に玉石や瓦などを埋め込むと落ち着いた表情が生まれます。



草花を飾るとまち並みが豊かになります。和風の壺や木製のフラワースタンドなどを用いると、より魅力が増すでしょう。



■ 建築物等の色彩の推奨色

ここでは、建築物や門・塀の屋根と壁の色彩について、二川宿のまち並みにとって最も望ましい色彩を「推奨色」として示します。

なお、色彩の表示は、日本工業規格(JIS)に定められ、世界共通の基準として用いられている「マンセル表色系」を用います。

【マンセル表色系について】

マンセル表色系では、色を「色相」、「明度」、「彩度」の3つの要素で表現します。

色相

色合いを表します。

R(赤)、YR(黄赤)、Y(黄)、GY(黄緑)、G(緑)、BG(青緑)、B(青)、PB(青紫)、P(紫)、RP(赤紫)の10種類の基本色を記号で表現し、記号の前に0から10の数字をつけ、色の違いを細かく表記します。

明度

色の明るさを表します。

0から10の数値で表現し、数字が大きくなるほど明るくなります。10は白、0は黒になります。

彩度

色の鮮やかさを表します。

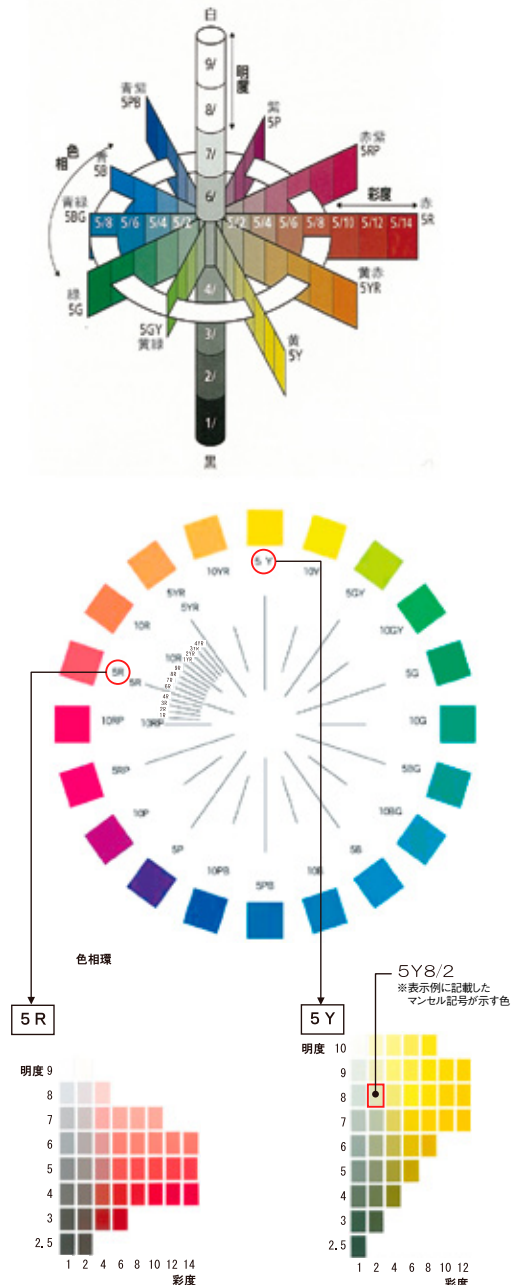
0から16程度までの数値で表現し、数字が大きくなるほど鮮やかになります。最高彩度は色によって限界が違うため、色相によって最高の数値が異なります。また、白、黒、灰色は無彩色(記号:N)といい彩度は0です。

色の表示は、色相、明度、彩度の順に示します。

表示例：5Y8/2

この表示例では、色相は「5Y」、

明度は「8」、彩度は「2」です。



■ 推奨色

● 屋根の推奨色について

屋根の推奨色は、二川宿の歴史的な建築物の瓦の色をもとに設定しています。

基本的にどのような色相でも彩度0.5以下であれば色相の違いをほとんど感じず、明度をおさえることで瓦の色と同色と捉えられることから数値を設定しています。

● 壁の推奨色について

壁の推奨色は、二川宿の歴史的な建築物の壁や格子の素材である木材やしっくいの色をもとに設定しています。

木材の色である10R～5Yの色相では、落ち着いた木材の色からそれに調和する比較的明るい色までを許容しています。また、色相の違いをほとんど感じない彩度0.5以下の色と無彩色では、しっくい塗りの色に配慮し、白に近い高明度色も許容しています。

なお、高明度色は、広い面積で使用すると二川宿の落ち着いたイメージを損ねてしまうため、濃い茶色や黒色などとセットで使う必要があります。

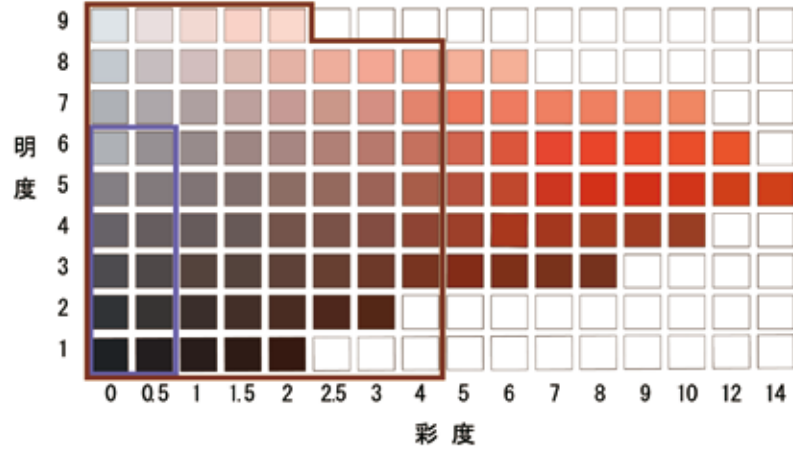
区分	色相	明度	彩度
屋根	制限なし	6以下	0.5以下
壁	10R～5Y	8を超える場合	2以下
		8以下の場合	4以下
	その他(Nを含む)	制限なし	0.5以下



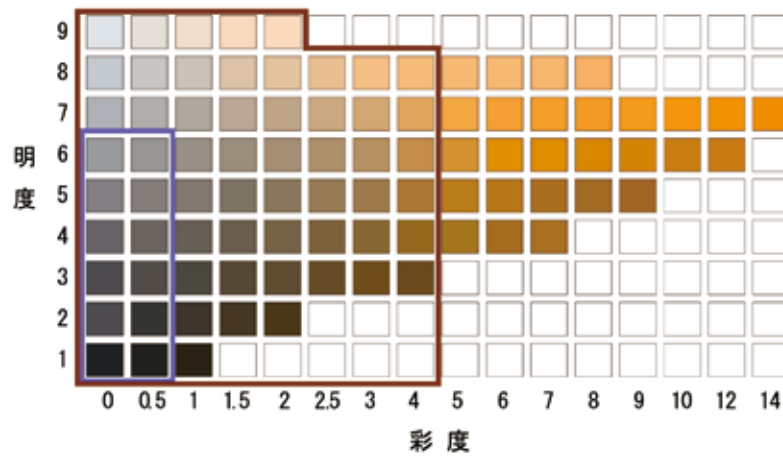
東の枡形付近のまち並みの将来イメージ

■ 推奨色の範囲の例

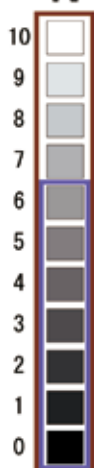
10R



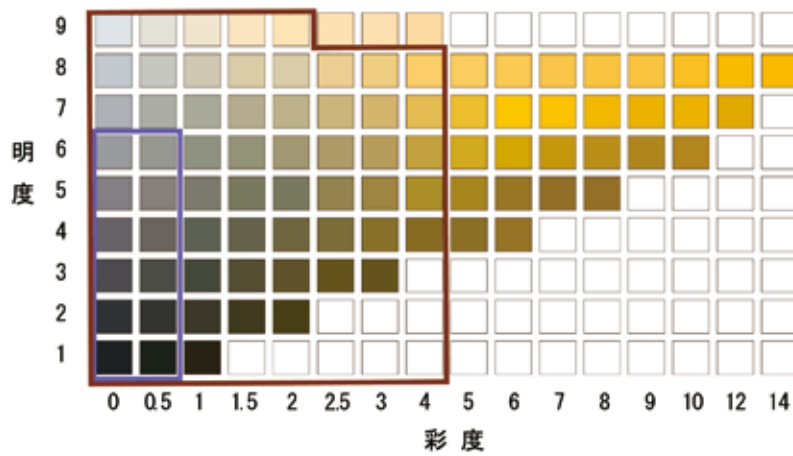
7.5YR



N



2.5Y



凡例

□ : 屋根の推奨色の範囲

□ : 壁の推奨色の範囲

※注意:印刷のため実際のマンセル表色系と色が異なる場合があります。

(2) 歴史的な建築物の基準について

ここでは、「表2 歴史的な建築物の基準」にあてはまる代表例を紹介します。表2の基準を用いる場合は、ここに紹介する代表例や一般公開されている二川宿本陣資料館などを参考にするとよいでしょう。

歴史的な 建築物

【基準】

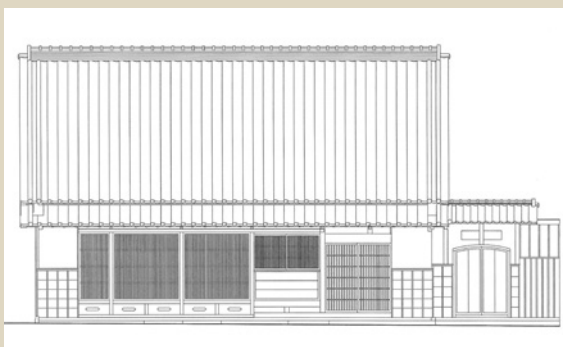
- 表2のとおり

※歴史的な建築物とは、江戸期から受け継がれてきた二川宿の伝統的なまち並みを構成する建築物を言います。戦前までの建築物は、比較的この基準にあてはまるものが多くあります。

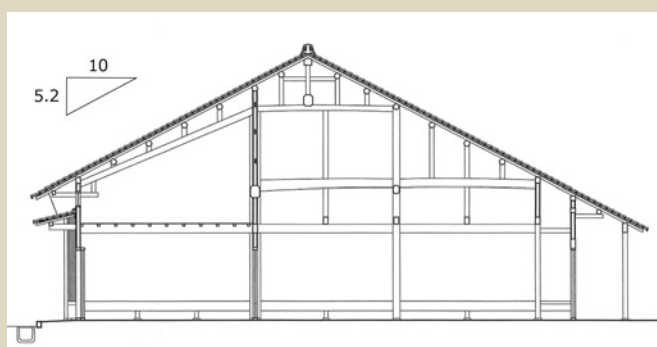
※建築の様式は、建築された年代や用途によって少しずつ違いがあります。また、使用されながらその時々によって改修が加えられている場合もあり、それも歴史的な建築物の特徴のひとつになっていると言えます。

【代表例：旧商家「駒屋」主屋（市指定有形文化財）】

- 建築年代：文化11年(1814) 安政2年(1855) 修繕
- 構造：木造、つし2階
- 業種：商家(質屋・米穀商)
- 屋根：切妻屋根、棧瓦葺き
- 壁：しっくい塗り、板張り
- 軒裏：しっくい塗り、垂木表し
- 1階窓：出格子
- 玄関：引き戸
- 樋：銅製



▲竣工立面図

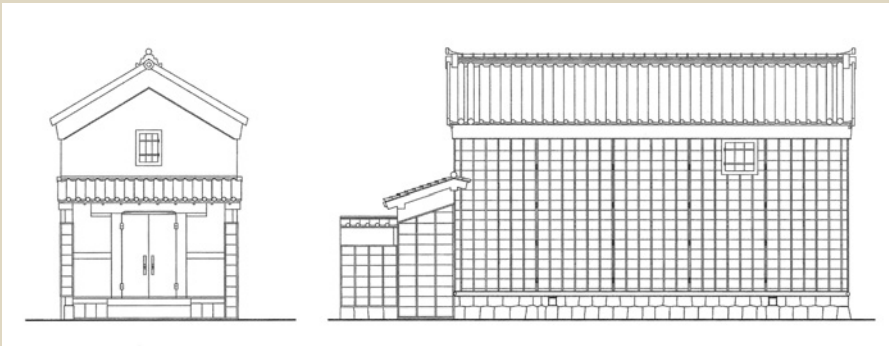


▲竣工断面図

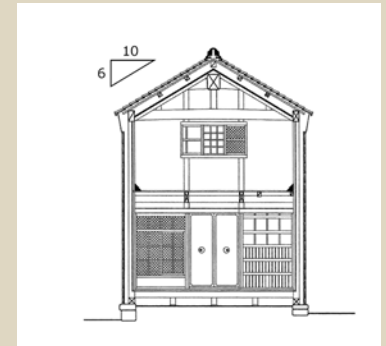


【代表例：旧商家「駒屋」南土蔵（市指定有形文化財）】

- 建築年代：安永3年(1774)または天明元年(1781)
- 構造：土蔵、2階
- 業種：商家(質屋・米穀商)
- 屋根：切妻屋根、棧瓦葺き
- 壁：しっくい塗り、板張り
- 庇裏：しっくい塗り、垂木表し
- 窓：金属製建具
- 出入口：土蔵扉
- 樋：銅製



▲竣工立面図



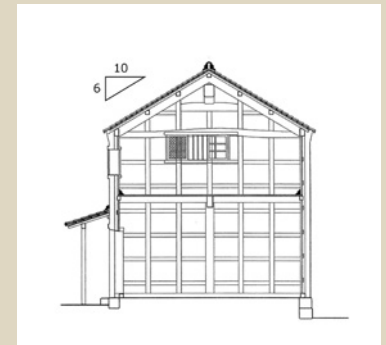
▲竣工断面図

【代表例：旧商家「駒屋」北土蔵（市指定有形文化財）】

- 建築年代：大正期
- 構造：土蔵、2階
- 業種：商家(質屋・米穀商)
- 屋根：切妻屋根、棧瓦葺き
- 壁：しっくい塗り、板張り
- 庇裏：野地板および垂木表し
- 窓：金属製建具
- 出入口：板戸
- 樋：銅製



▲竣工立面図



▲竣工断面図



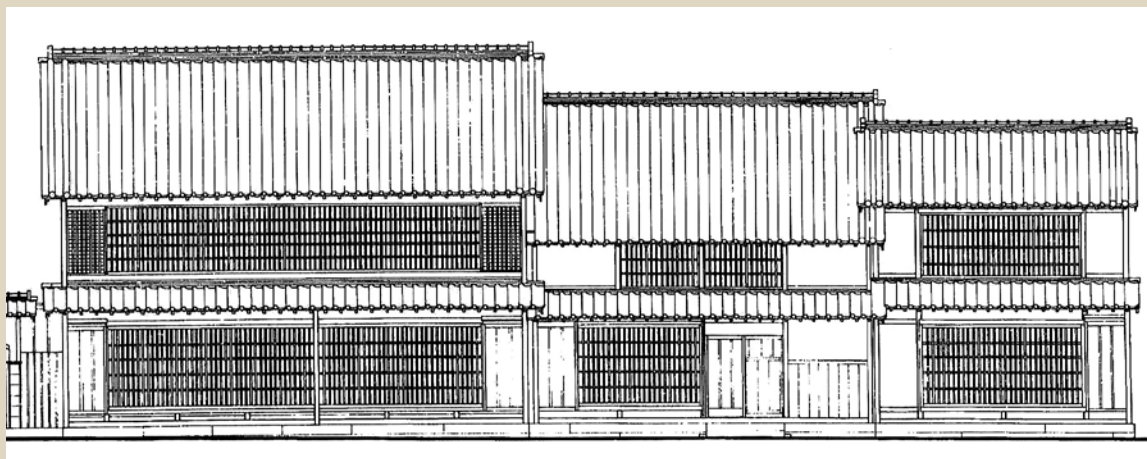
▲南土蔵



▲北土蔵

【代表例：東駒屋】

- 建築年代：左から 大正時代、明治時代後期、大正時代
- 構造：木造2階
- 業種：味噌・醤油製造販売業
- 屋根：切妻屋根、棧瓦葺き
- 壁：しっくい塗り、板張り
- 軒裏：しっくい塗り、垂木表し
- 1階窓：出格子
- 2階窓：格子窓
- 玄関：ガラス引き戸、板戸
- 樋：銅製

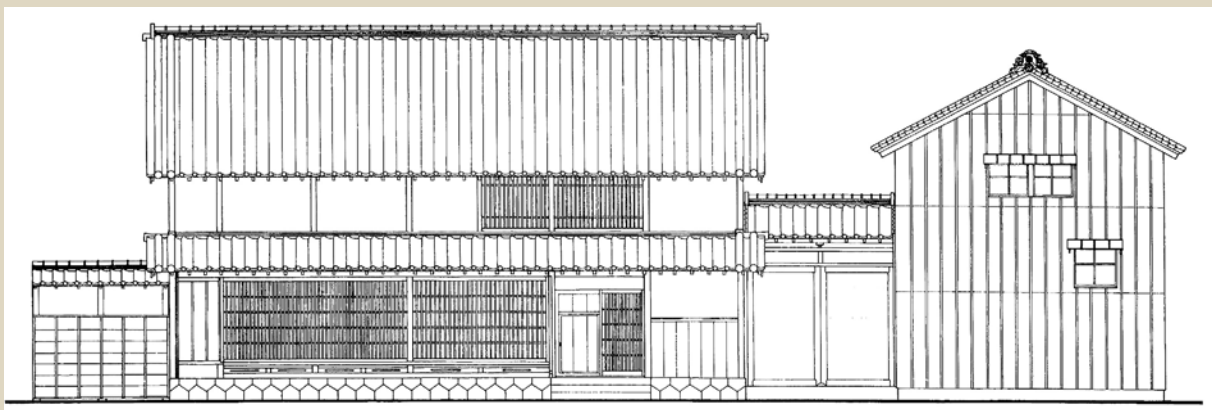


▲復原立面図

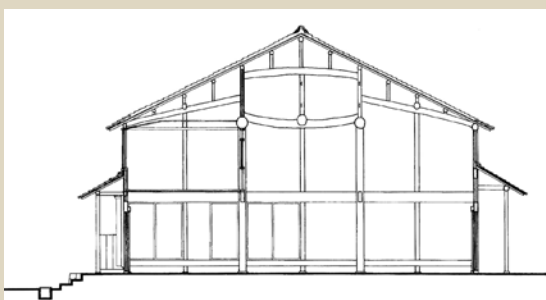


【代表例：西駒屋(国登録有形文化財)】

- 建築年代：左から 明治時代後期、大正時代
- 業種：味噌・醤油製造販売業
- 屋根：切妻屋根、棧瓦葺き
- 壁：しっくい塗り、板張り
- 軒裏：垂木表し、銅板包み
- 1階窓：出格子
- 2階窓：格子窓
- 玄関：ガラス引き戸
- 桶：銅製



▲復原立面図



▲復原断面図

